

"私たちがタイ赤十字を助け、タイ赤十字が私たちを助ける"

王室が育んできたタイ赤十字社の人道的使命を振り返る

テート・ブンナーク

タイ赤十字社事務局長

2022年5月8日、世界赤十字デーを祝ったとき、「＃BeHumanKind: 優しさの力を信じよう」が今年のテーマでした。優しさについて考えるとともに、タイが国際赤十字運動の一員となった経緯についても思い起こしたいと思います。

1893年の設立以来、タイ赤十字社は、医療と社会福祉を必要とする人々に支援を提供する人道的使命を追求してきました。当社は、多くの負傷者と死者を出したメコン川の左岸をめぐるサイアムとフランスの紛争から生まれました。当時は、負傷者の支援や救済を行う組織はありませんでした。女官であるプリアン・パーサコンウォンは、タイの女性たちに資金を調達し、負傷した兵士を助けることのできる薬や医療器具を集めるよう呼びかけました。プリアンは、赤十字が行っていた方法で、負傷者と影響を受けた民間人をケアする組織があるべきだと考え、サワーン・ワッタナー王妃にこのアイデアを提案し、王妃はチュラロンコン国王陛下に提出しました。国王はこの救援活動を承認し、「国の模範となるにふさわしい良い取り組みだ」と賞賛されました。国王は1893年4月26日に、タイ赤十字社の前身である「サイアムの赤評議会」の設立を許可しました。国王はまた、「サイアムの赤評議会」の最初の資金調達開始のために8万バツの私財を寄付され、「私の人生と財産はサイアムと一体である」という公式声明も発表されました。この声明の直後、1893年6月に赤十字病院建設のために宮殿を使用することが勅許されました。

サイアムとフランスの間の紛争が終結すると、チュラロンコン国王は彼の息子の一人、ナコンチャイシー・スラデート王子にサイアムの赤十字評議会と病院を人道的使命を遂行するための恒久的な組織として発展させ、制度化することをお願いしました。国王はこのプロジェクトが完成する前に惜しくも亡くなりました。王位継承者であったワチラーウット国王は、兄弟姉妹とともに、既存の赤十字基金に寄付を行い、ラーマ4世通りの国王の私有地に病院を建設することでこのプロジェクトを完成させたのです。ナコンチャイシー・スラデート王子はこの病院の建設を監督しました。タイ赤十字社チュラロンコン王記念病院は、現在も一般市民のための最新鋭の医療設備を備えた国内最高の病院として知られ続けています。



*Office of the Siam Red Cross Society (1914-1932)
Source: Thai Red Cross Society Website*

今日タイ赤十字社について耳にしたときに何が思い浮かぶかと聞かれると、ほとんどの人は慈善的な人道的組織と考えるでしょう。タイ赤十字社は、戦時中の負傷した兵士や民間人のための医療活動から始まり、特に 1956 年にシリキット王女が会長に就任されてからは、多くの任務を担うまでに拡大しました。

シリキット王女は、タイ赤十字社の人道的使命に献身的に取り組んでおられます。1979 年 5 月、タイのトラート県に数万人のカンボジア難民が押し寄せたとき、彼女はその状況を直接目にするためトラートへ駆けつけました。そして、タイ赤十字社の会長として、当時の政府の方針に反し、難民に住居、食料、医療を提供するタイ赤十字社カオランセンターを設立し、それは 1991 年にカンボジアに平和が戻るまでの長い間彼らの避難所となりました。



*Khao Lan Thai Red Cross Centre on Trat-Khlong Yai Highway at Km. 48, formerly a facility to assist Cambodian refugees from 1978 - 1986.
Source: Thailand Trip Tour Website*

難民や避難民に対する人道的支援に加え、タイ赤十字社は、タイの公的医療を強化するための他のサービスも提供しています。政府は当社に国立血液センターの事業を担当するよう任命しました。タイ赤十字社の職員とボランティアはまた、自然災害が発生したときは必ず犠牲者へ救援物資を用意します。

新型コロナウイルスのパンデミックの間、タイ赤十字社は全国的なワクチン接種活動で積極的な役割を果たしました。全国ワクチン接種キャンペーンに参加するにあたり、当社は一貫して、「誰も置き去りにしない」という政府の方針に沿って、タイ国民とタイの移民労働者やその他の脆弱なグループを含む外国人のすべての人にできるだけ早くワクチン接種を受けることを奨励しました。2022年5月現在、タイ赤十字社が1,816,316人分の新型コロナウイルスワクチンを移民労働者及び西側国境の避難民を対象に無料で投与したことは、タイの長い人道的伝統の証です。



*The Thai Red Cross Society and its network partners provide the proactive COVID-19 vaccination rollout for displaced persons at the Ban Mae La Temporary Shelter, Mae La Sub district, Tha Song Yang District, Tak Province
Source: Thai Red Cross Society Website*

ワクチン接種活動に加え、タイ赤十字社の職員やボランティアは各地でコミュニティキッチンを開設しています。これは、できるだけ多くの人々に援助が行き渡るよう継続的に努力し、様々な県の公共の場所に仮設キッチンを設置することによってパンデミックによる人々の困難を軽減することを目的としています。

「タイ赤十字社の使命は、社会的に支援を受けるべき人々を支援するだけでなく、一般的に困っている人々を支援することにも関係しており、まさに人道主義のための活動です。私たちは、仲間を助けることは全人類の義務であると考え、タイ赤十字社で働く人々はこの使命をととてもよく理解しています。」

これは、1977年からタイ赤十字社の副会長を務め、人道主義、特に仲間に対する義務感や思いやりといった協会の遺産を継承し、社会奉仕を日常生活に取り入れてきたマハー・チャクラー・シリントーン王女が語った言葉です。

2022年4月26日、国王陛下の庇護のもと、タイ赤十字社は創立129周年を迎えましたが、人道的活動を拡大および強化し、タイ社会の優しさの力を信じて地域社会奉仕の精神を育み続けています。



テート・ブンナーク博士は、タイ赤十字社の事務局長であり、タイの元外務大臣です。元キャリア外交官として、外務次官及び北京、ジュネーブ、パリ、ワシントンD.C.でタイ大使を務めました。彼は元タイ政府奨学生で、英国のケンブリッジ及びオックスフォード大学で歴史を学びました。